

# 献呈のことば

学長 谷 岡 一 郎

今年度をもって、正木幸子先生が退職なさいます。本号はその記念号です。まずは正木先生に対し、これまでのご尽力に心より感謝申しますとともに、投稿くださった皆様にお礼申し上げます。

正木幸子先生は情報処理関連がご専門ですが、いつもニコニコ笑っておられる姿勢に感銘を受けておりました。学生からも人気が高く、親しまれていました。かつて大阪商業大学で教えておられた福嶋裕先生、現役の高橋美貴先生や樽磨和幸先生らと執筆なされた教科書、『読み書きパソコン』は、分かり易い優れた著作として本学だけでなく、他の大学を含めた広い範囲でも高く評価されているようです。それ以外にも高校生以下を対象とした情報教育のあり方を常に模索し、それに関する論文も多く残されています。科学研究費の獲得にも積極的にチャレンジを続け、都合3回にわたり、国からの資金をいただき、そのお陰で、大阪商業大学の外部資金獲得比率が向上する結果となりました。学長の立場としてたいへん嬉しいことでした。

情報機器およびソフトウェアの分野は、それこそ日進月歩の世界。研究者は少し油断すると、「過去の人」になりかねない恐ろしい世界でもあります。AIなども開発競争が続いていますが、ずっと第一線で活躍を続けてこられた正木先生には、驚嘆の念を持つのみです。正木先生に関しては、過去形は似合いません、これからも第一線で活躍なさるものと信じております。

正木先生は体力的・健康的には、今のところ何の問題もないと聞いております。教育者としての正式な義務はひとまずなくなりますが、研究に終わりはありません。逆に多くの時間を今まで以上に研究に使える環境となるのですから、一そして正木先生のことですから—また新しい研究をスタートさせてくれるでしょう。

区切りとしての退職、取り敢えずおめでとうございます。むろん頻繁に顔を見せてくれるでしょうから、これからも変わりなくお付き合い願います。その折には新たな成果物や、新たに考えているトピックなどを開示してくれるものと信じています。楽しみにしております。

正木先生にはこれからも、大阪商業大学のために、さらなるご活躍をお願いしたいのですが、まずはお体を大切に、有意義な日々をお送りください。これまで有難うございました。

